

ドクターNAKAMURAの 健康道場



Vol.38 タバコを吸って一人前？

健康道場に入門した山部聡は兄弟子の御手洗透とともに和尚の教えの元、座禅を組んでいる。

そして今、昔懐かし大学院に在籍していた頃に来た。

ゼミは教授をはじめ、多くがヘビースモーカーだった。昭和の香り漂うゼミ主催のビアパーティーの宴席。

「山部、お前はタバコを吸わんのか」主任教授がセブンスターを蒸かせながら言った。

「何か、旨いとは思えません。口の中が苦くなるし、しびれるし。自分には合っていないように思います。」

「タバコも吸えないようじゃ、まだまだ、半人前じゃ。今時、高校生でも吸っとるぞ。」

「先生、それは不良です。」

「冒険もできんようじゃ、大物にはならんぞ。な、三谷」教授はゼミ仲間の三谷も一緒に揶揄した。

「今年は何か、小粒なんよな」

「健康じゃ何じゃ言う前にもっと世間をあっと言わせるような大物は出てこんか。うちのゼミからは。」…確かに感じていた。（自分の健康もコントロールできない奴が、大成もくそもあったもんじゃない。）とおぼろげにそう感じていた自分が、そこにいた。

だが、人間とは弱いものだ。

力関係で上が白と言えばすべて白と思ってしまう。

「タバコも吸えんで一人前か！」と言われれば、一人前になるために大人の仲間入りをするために、むせながらも皆でタバコを吸っていた。その恩師が75歳で肺癌になってしまった。

告知を受けた時の恩師の一言が

「まさか自分が…」

「ちょっと待て！」

「そんな覚悟もできんと、人にタバコを吸わせとったんかい！お蔭でこちらはニコチン依存症になって辞めるに辞められない体質になってしまった。」

健康道場に入門した山部聡は二十代の自分と相對峙しながら、今の自分に降りかかった脳梗塞という現実との間で静かに座禅を組んでいる。

そよかぜ 循環器内科・糖尿病内科
(県立中央病院 前)

院長 中村陽一